01

mission 2 cargraphic

ストリートはもちろん サーキットで実力を発揮する本格派チューナー

CALL>>Cargraphic Japan distributed by Vitamin（カーグラフィック・ジャパン ディストリビューテッド ヴァイタミン）0798(68-5551 www.cargraphic.jp, www.vjpn.com.
PHOTO>>HIDEHIKO ISHIJIMA（Studio Zero）

02

01カーグラフィックの1ピース鍛造「RG-5」がマシンの足元を支える。鍛造3ピースの「レーシング3ピース」も人気のプロダクトだ。02'07年のチューナーGP優勝車両のカーグラフィックGT3 RSC4.0。カーグラフィックのオリジナルフロントリップスポイラー、1インチ・ワイドとなるフロントフェンダー、リアウイング、ドア、ボンネットなど（すべてカーボン製）が組み込まれ、大幅な軽量化とエアロダイナミクスを手に入れた。03エンジンは4.0Lビッグボアキットを組み込み、ピストン、カムシャフト、エキマニ等も交換済み。04こちらは新たに製作し、今年のチューナーGPで2位入賞を果たしたターボGT RSC3.6のエンジンルーム。カーグラフィックのRSチューニング・パワーキット4（エアインテークパイプやDMEチューニング、スポーツエキゾーストなどのセット）プログラムがインストールされ624psを発揮する。05タイヤハウスから見えるのは、キットに含まれるカーボン製のエアインレット。

03

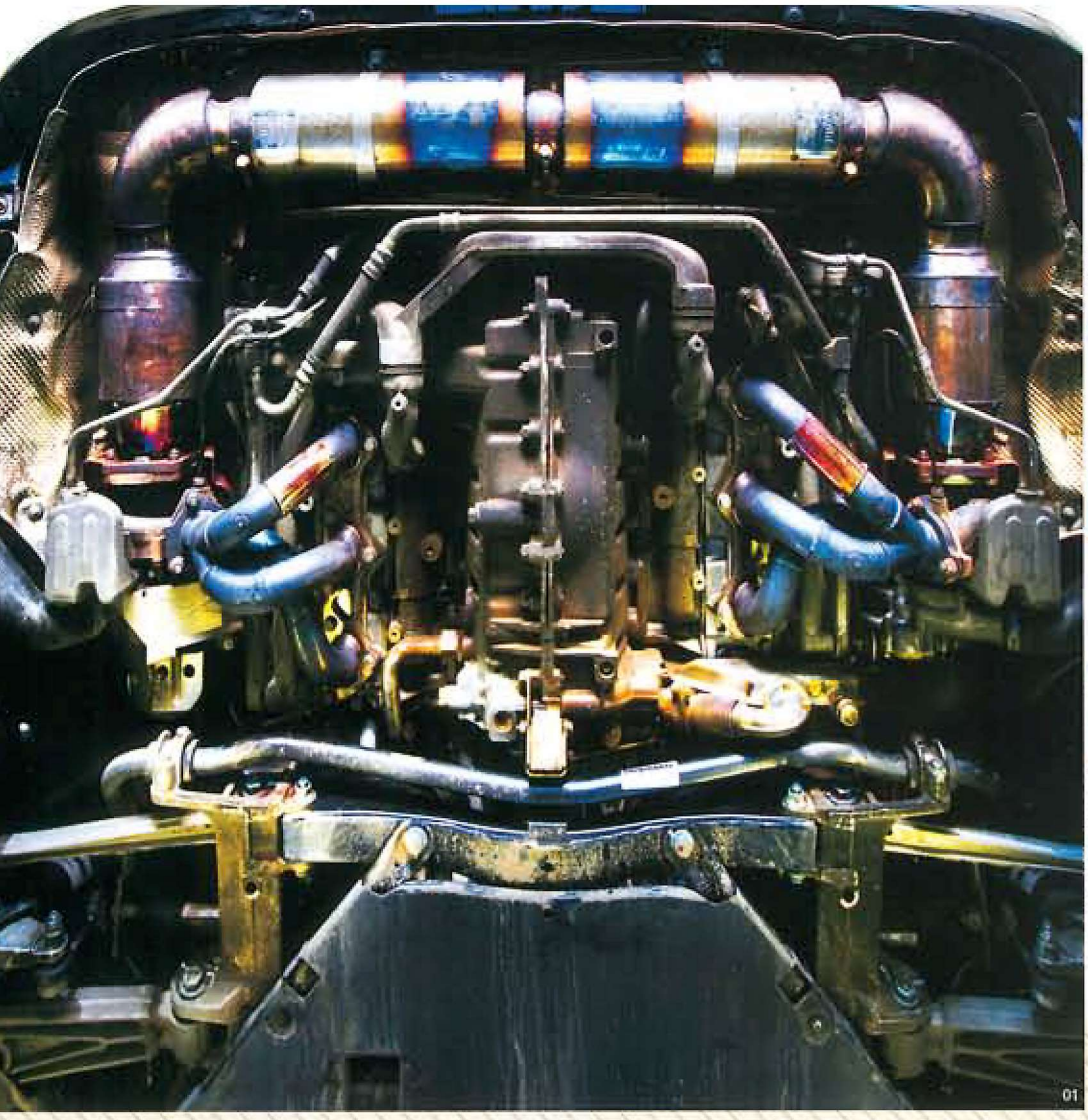
04

05

'04〜'07年にかけて、ドイツ・チューナーGPにおいて3連覇を成し遂げたcargraphic（カーグラフィック）。今年こそ1位をテックアートに譲ったが、出走2台が見事2位、3位に入賞する検討を見せた。

カーグラフィックといえば、ポルシェチューナーというイメージが強いが意外にも設立当初はトライアンフなどの英国車の整備が中心だったという。その後、徐々にチューニングを手がけるようになり、マフラーの製造で実績を上げていった。主にOEM供給を行っていたのだが、数年前から自社ブランドでの展開を開始し現在に至っている。その名が表に出るようになったのは最近のことなのだが実績は十分にあったわけだ。だからこそチューナーGPでの3連覇も成し得たわけで、なんのノウハウも実績もないチューナーがレースで勝てるほどドイツのチューニング業界は甘くはない。言い換えれば、カーグラフィックのポテンシャルはそれだけ高いということ。

もちろんレースでの活動だけがカーグラフィックのすべてではなく、ストリートカスタマーのクルマをチューニングすることや、オリジナルホイール、ボディパーツの開発・販売も彼らの重要なビジネス。中でもマフラーと鍛造3ピース／1ピースホイールは人気のアイテムで、VW、アウディ、マセラティ、アストンマーティンなど幅広い車種に向けたプログラムが用意されている。ポルシェユーザーはもちろん、他車ユーザーも注目したい気鋭のチューナーだ。



01カーグラフィックが得意とするのがこのステンレスマフラー。メタルキャタライザーを組み込んだストリートリーガル仕様。ちなみにストリート向けのプロダクトではET, ETS, ETR, ETSSと音量により4種の設定がある。最も大音量のETSSを除いてTUVの規格にパスしている。通常リーガルバージョンで十分なパワーが出ているので、イリーガルバージョンを提供することはあまりないらしい。02 GT3 RSC4.0とGT RSC3.6が並んだピット。03カーボンフェンダーの綾目がわかるだろうか？　カーグラフィックのカーボンは綾目の美しさで定評がある。

01ホッケンハイムサーキットの近くに位置するカーグラフィック。ほとんどすべての製品がホッケンハイムでのテストを経て製品化される。もちろんシミュレーターやアウトバーンなどでの実験も適宜行われている。0203倉庫には3ピース鍛造用のアウターリムとインナーリム、ディスクが大量に在庫されていた。さまざまなサイズ・デザインを常に在庫しているので、特注カラーや特注フィニッシュでない限り、3日で出荷が可能とのこと。マフラーで有名なカーグラフィックだが、実はホイールも重要なプロダクトとなっているのだ。04ファクトリーの一角では3ピース鍛造の組み付けが行われていた。05、カーボン製のフロントリップスポイラーとドアミラー、そして鍛造3ピースの21インチが装着されたヴァンテージのデモカー。06エキゾーストマニホールドやマフラーは、ポルシェ用はもちろんのこと、フェラーリ、BMW、アウディなど、多彩な車種に対応。07さまざまなパーツがディスプレーされたカーグラフィックのショールーム。

What's the SPORTMAXX?

ドイツでは多くのチューナーがタイヤメーカーとの技術提携を結んでいる。このカーグラフィックはダンロップとのパートナーシップを構築していた。Sタイヤが許されないチューナーGPでカーグラフィックが装着していたのはダンロップのSPスポーツマックスだ。日欧共同開発で生まれたダンロップのフラッグシップタイヤであり、ハイパフォーマンスカーの性能も余裕で受け止める。DUNLOP（ダンロップ）0120-39-2788 http://tyre.dunlop.co.jp